(大正八年三月七日第三種郵便物認可)

八夕 日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町新屋敷十四
編輯兼發行人 岡田弘成
福島縣石城郡平町字十四
印刷所 磐城時報社
福島縣石城郡平町字十五
發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金壹圓
廣告料(一行)四金壹錢
▲日刊(日曜、祭日)休刊

湯本町の傾城トンネル
愈々本工事斷行か
湯本町には前回同様に多數勞働者入り込まん

既報常磐線綴、湯本間傾城トンネルの龜裂修理は過般來平町堀江工業の手により着々豫期の進捗を見つゝあるが現在同山上の龜裂は實に約七寸に達する個所あり而も該トンネルは上り下りを合し列車の往復六十回に上りトンネル内における作業の困難いふべからざるものあるも今后到底現在のまゝに放置出來ぬ事情に在るのでその筋においては現在堀江工業における第三期工事より引き續き本工事を斷行するの必要を認めたるものか東京鐵道局岩井保線課長、田中水戸保線事務所長の一行は現場に出張詳細なる調査を遂げ歸任したがいよ〳〵その筋において工事を行ふ事に決定の上は地方有數の大トンネルだけに多數の勞働者が入り込み湯本町附近は前回同様の賑ひを見ることゝ想像される。

しなくも不正選擧を曝露したと言ふ噂が昨今同字酒井方面に專らなのでこれに就き植田警察署に眞疑をたゞすと花見高等係は語る。

衛生委員
疑問の選擧

衛生委員改選の際の報告はつまらぬ事なので書類でなく電話で報告があつたのみで何時であつたかさへ記憶がない、從つてその結果における不正事實問題など注意もしてゐないし駐在所からの報告もなく該問題に對しての事實など信じられないと向ふ河岸の火災視し全然否認してゐたが後藤署長は駐在所に命じて眞疑をたしかめる積りであると稍色氣ある答へをしてゐた。

小田炭礦も勸誘し
徹底的に出炭制限
鳳城外數炭礦に交渉

常磐炭礦界は未曾有の大不況に遭遇して昨今二十四萬噸といふレコード破りの貯炭を擁し今後それを如何に打開し善處すべきかに就き焦慮中であるが大勢既に各方面の財界とも窮狀その極に達しゐる現狀として名案もなく先づ常磐炭礦聯盟常磐礦業會の申合せにて一割五分出炭制限を斷行してこれが緩和の一策を努めて來たが該申合せの出炭制限には從來植田町地方を中心とする小炭礦が加盟してゐなかつたためその徹底を期する意味において小炭礦をも徹底して初期の目的を遂行せんと七日礦業會代表者の名義にて植田町鳳城、阿部、吉田、伊藤の各炭礦に向つてこれが同意を求めて來たのでこの交渉を受けた各炭礦では如何なる回答を與ふべきかに就き協議を凝らしてゐる。

小田坑出水
出炭量減る

石城郡好間村小田炭礦は四日來の降雨のため坑内の出水甚だしく採炭不能に陷つたところが多いので五十馬力の排水ポンプ三臺で排水作業中であるが復舊まで尚數日間を要したために採炭量半減した。

小作納入米統一
平穀檢所斡旋

石城郡下の小作納入米はまちまちで地主、小作人の双方が不便不利を招いて居るので穀檢平支所では郡全体を統一すべく計畫し來る二日頃管内の主なる地主を招致協議するはずだつたが雨のため不作を豫想し農家が青息吐息の狀態で居る矢先に地主協議會を開くことは小作人から誤解される恐れがあるので暫く延期し秋の納入期までに實現することになつた。

▲入山坑歌募集

石城郡入山採炭會社坑務所では炭鑛最初の計畫として炭鑛の生活を十分に現したる坑歌を一般から募集中である。

夏井川に飛込み
溺れ子供を救ふ

平窪村大字大室松崎末松六男榮造(六ツ)は五日連日の降雨に增水した夏井川を見やうとして平窪村幕の内假橋に至るや突然河中に轉覆押し流されたのを同村長谷川磯五郎が發見河中に飛込んで救助し手當の結果蘇生した

▲八代氏に記念品

今回二十有余年の記者生活より退いた東京朝日新聞平通信部主任八代公行氏のため伏見町長、猪狩平署長、山崎與三郎、尾形治右衛門の諸氏發起となり記念品は七日午前十時から平第一小學校で擧行した戰跡左の如く八日午後一時から揚土倶樂部(平第一校職員)對第一小學校高等科の決勝戰を擧行する筈である。

第一校 3—0 北辰白銀
平商業 4—3 田町
記者團 2A—1 南町
揚土 2A—1 平商業
▲準決勝
平第一校 7—1 記者團

村を追はる
外山生
(その十二)

××郡視學樣は壇上悠然と講演を始めた、二百にあまる青年處女は水を打つた樣に靜かである……農村は疲弊したと云はれてゐる、農村滅亡をさへ唱ふるものがある、此の時にあたり各位の奮起を望むや切なり……上御一人におかせられても時代の流れを痛く御しん念あらせられ懼れ多くも我等國民に、戊申詔書を降じ給はれ、臣民の輕佻浮薄を戒め給ふ、抑も……云々と農村青年女子の都會憧憬を慨し美裝に思ひを焦し鶏の眞似之れ努めて耻じざる如きは不届千萬であると難じ、男は髮を長く油を塗り、女子はお白粉メリンスに浮身をやつす、野に出るにゴム靴を穿ち手袋を纏ひ襟卷を用ふ、質實剛健の氣風漸く遁を拂はんとすと嘆じ、農村青年婦女子の風儀、娯樂の革新を要望す……奮勵之れ努めて怠る勿れ、勤儉産を治めよ、恒々する勿れ、戒めざるべからずと累々千萬言講演は終つた。

席にあつて之を聽いた彼れは其の想想、所謂農村の實生活に即せざる此の種の教育こそ農村を灰色に脚色せしめ、農村青年處女の心の中深く前途眞暗い落魄たる農村を想起せしめて彼等を驅つて都會集中を余儀なくせしむるものにあらざるなきかを考へせしめた

× × ×

農村青年であり百姓の娘であるが故になゼ世間並の生活を欲してはならぬだらうか……彼等は確かに考へる筈である彼等と雖も人の子として若さのみ、もつ赤き血潮は流れてゐる、理想に燃える時代である、世間の人と何等撰ぶ處があらうか、小學校の庭ではオルガンを眞中に似もつかぬ運動洋服を着せられて飛んだり跳ねたり所謂ダンスを習つた彼等である、そして少しく大人になると何々すべからず、戒めざるべからずを教へられる、農村教育の矛盾でなくて何であらう、七ツ下りの老人ならいざ知らず、かくの如くにして全く霑のない農村を描かせてゐる、でなくてさへ彼等は父老を通じて農村生活の倦怠と苦惱を見た、何か知ら理想をもち憧れをもつ青年處女に、而も六十年の前途享樂なく、曙光なく、干からびた灰色の農村に一意努め勵まざるを思へば堪えらるゝ處であらうか。

福引景品付で
洋食の大賣出し
田町一の井の試み

平町田町西洋料理店一の井では謝恩の意味で十日から十月三十日まで景品付き賣出しを行ふ事になつたがその方法は、洋食一品毎に抽籤券を添え毎月一回人、出前持等を整え材料を豊富にして賣出しを待つてゐるが、珍らしい樣ほしとして一般から歡迎されてゐる。

▲北辰稻荷抽籤

白銀町北辰稻荷神社祭典の抽籤結果左の如し。

▲特賞白米一俵白銀町菅野チヨ▲一番白米一俵大工町丹野勝衛▲二番上布一反大工町長島利弘▲三番同一反二丁目萩野博▲四番三丁目大塚清治外九名▲五番紺屋町佐藤キン外九名▲以下百十番まで

スポンヂ野球
決勝戰

平スポンヂ野球試合第二日目は七日午前十時から平第一小學校で擧行したが、家出后東京、神戸、大阪、北海道等を徘徊し各地で窃盗を働らいたらしく目下取調中である。

松崎屋に
泊り込んだ賊

茨城縣眞壁郡伊讃村大字川島生れ當時住所不定無職落合梅四郎(二八)は東京府下龜井戸町柳島藤木梅四郎(二八)と詐稱し七日夜平驛前松崎屋旅館に投宿したのを平署猪狩刑事が探知し取調べたる處同人は七月三十一日夜北海道札幌市北區東二條丸中魚商店中村德雄方から現金八十餘圓を窃取逃走して來た旨を自白

鼻の薬「チクノール」
平五 山野邊藥局

2A－1 記者團

南町を破る

スポンヂ準決勝

南町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
記者團	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2A
	一	二	三	四	五	六	七			

雨にたゝられて延びになつてゐたスポンヂ野球大會は昨七日の晴天を待つて行はれた、この日の呼物は何といつても優勝候補の南町チームと當大會ダークホース記者團との準決勝であつた。

▲第一回　最初より投手戰を演じて鋭どいファイテングスピリットは滿場に滿ちてゐる

▲第二回、第三回も兩軍投手の好投に壘を踏むものなし、俄然試合は白熱化して物凄い樣な緊張が部手の顏にみなぎつた。

▲第四回　先攻の南町チームにチャンスが訪れた、先ず第一打者はウエーテングに四球を待つてた二、三の後大きな曲球を見逃して三振、次打者山崎は外野に大きな飛球を飛ばしたが岡田見事に捕ふ、觀衆は今や全く兩軍選手の善闘に醉はされてゐる、二死である、果然次打者小林左壘線上に沿ふ大本壘打を飛ばし遂に貴重なる一点を先取す。記者團は二死後織田の安打あつたのみ。

▲第六回　南町無爲。記者團は一死後荒川四球に出たのを幸と水野代走して遮二無二に一点を奪取せんと決死的の最後の手段に出た。次打者清水一、二の時、水野は投手の隙を見て二壘へデレールステールして見事に成功。續いて長驅三壘による。この時清水二三の後惜しくも三振して二死となる。次打者は榎本。記者團のベンチからは盛んにサインが出る。三るいのランナーを盜壘させようとしてゐるのである。思ひ切つた冒險だ。果然水野は脱兎の如く本壘めがけて突入した。さつと白煙があがつたと同時に惜しむらくはアウトを宣する審判の聲がきこへた。この頃試合は全く白熱化した。遂に最終回がきた。

▲第七回　記者團大いに頑張つて三者三振に打取す。スコアは南町一記者團0である果然運命の神の惡戯が行はれた。南町を初め一般觀衆の中誰がこの破綻を豫想するものぞ。記者團のバッテングオーダーは三番からだ。絶好のチャンスだ。三番熊は勇躍してボックスへ向つた。打つた物凄いライナーだ。しかし二壘手は見事に横走飛上つて好捕した。次打者は四番水野である。彼は善く選んで四球を取つた。一死、一壘走者、ランナー盜壘好きの水野。バッター岡田。○三となる。この時水野盜壘す。次に一・三となる水野又もや三るいへ盜壘。捕手投げたが壘手ハンブルしてセーフとなる。ベンチからスクヰーズのサインが出た。見破れて岡田三振。水野も危うす、本るいに刺されんとしたが巧みに三壘へ歸る。二死、三壘のランナーは盛んに本壘を盜もうとみてゐるが一分の隙もない。次打者は六番の荒川である。彼全身の力をこめて打てば見事なるタイムリーヒット（三壘打）となつて水野生還。荒川三壘に據る。同点だ。二死で三壘走者である。次打者は七番熊（弟）である。彼は第一球を打つた。投ゴロだ。然るに投手小林は一壘へ投げずして本るいへ突入してきたランナーにタッチせんとして失敗した。かくして豫想せざる最後回の裏において南町は豫想せざる敗退を招いてしまつた。

印刷物は　加納活版所

貸家
新川町十七
商店向（月十七圓）
新川町
中野勇吉

△共存ト共榮
△簡易ノ金融
△越味ノ貯蓄
△誠意ト堅固
大東京信託
資本金壹拾萬圓
磐城無尽商會
△縣内
△至ル所ニ取扱所アリ
△何時デモ申込下サイ
△絶エズ當會ヲ慕フ

大和田醫院
耳鼻咽喉科
平町南町
電話一七〇番

胃腸
内科
十二指腸虫病
専門
淋病
婦人病
皮膚病
花柳病
松村病院
平南町
電話一七〇

八月五日ゟ（舊六月二十日ゟ）
夏物破格（景品付大賣出し）
御中元のお買物は
五軒店へ
景品の山
㊀伊
二丁目　伊關吳服店
㊀山
一丁目　山家メリヤス店
㊀關
一丁目　關原硝子器店
㊀和
一丁目　和久井屋漆器店
㊀森
一丁目　森下玩具店

高級洋食
一品毎に
お買上券一枚進呈
景品
一等　二本
二等　三本
三等　五本
四等　十本
五等　三十本
（美景　山海）
洋式宴會仕出し
一の井
平町田町（電話一六七）

た信愛下さる一の井洋食謝恩デー
八月十日ヨリ三十一日マデ三ケ月間三回抽籤
抽籤方法　毎月廿五日ゟ切　磐新、常磐、時報記者立會の上抽籤　廿八日右三新聞紙上發表

家傳
神皇散（一週間金壹圓）
◎血ノ道◎產前、產後◎難產、流產ノくせ◎古血、惡血ノ滯◎子宮、寸白、腰、腹、冷ヘ◎男女頭痛、目眩、立眩ミ◎上逆◎腦神經不眠症ニ大効ヲ奏ス。
代理店　平研町
水野藥局

平町字田町（電話四七五番）
赤心堂病院
外科　外科一般、耳鼻科、花柳病科
婦人科　產科、婦人科
内科、X光線科

夏の飲料
◆サッポロビール◆
◆金線サイダー◆
◆純粕取燒酎◆（空瓶交換）
御注文次第直ちに配達いたします
平町四丁目平驛通り
永山酒造店出張販賣所
電話二〇七番

不思議な靈効を有する
養命酒（まむしのエキス）
半ケ月分一・五〇
一ケ月分二・〇〇
甘味にして頗る芳香飲み易し眞に補血强壯劑の高級品也
平町五丁目角
代理店　山野邊藥局

長女和子儀八月二日午後二時三十分死去致候
間此段謹告仕候
追て來る九日午後二時自宅出棺豐間村淨應寺に於て葬儀相營申候
昭和三年八月六日
福島縣石城郡豐間村
川井重之